

# 2026 年 8 月 28 日 第 3563 回例会

於： 横須賀商工会議所

持続可能な  
インパクトを  
生み出そう

Rotary

<点鐘・開会> 12:30 渡 邊 会長

<斉 唱> 「それでこそロータリー」

<ゲスト紹介> \*歴史&山城ナビゲーター 山城ガールむつみ 様

<ビジター紹介> \*横須賀北RC 福 嶋 義 信 様

<会 長 報 告> \*ガバナー補佐より

・2026～2027年度地区大会開催のご案内について

日時：10月11日（日）12:00 登録・受付

12:30 オープニングセレモニー

12:40 点鐘

15:48 記念講演

18:17 閉会の辞

18:20 閉会・点鐘

場所：鎌倉芸術館大ホール

・社会・国際奉仕セミナー「繋げよう！変化からインパクトへ」のご案内について

日時：9月26日（土）14:00～16:30（登録受付 13:30～）

場所：第一相澤ビル8F「会議室」

・第4回世界米山学友による世界大会「愛 in 台湾」登録のご案内について

開催日：12月4日（金）～6日（日）

開催地：台湾 宜蘭県礁溪郷（ジャオシー）

<幹 事 報 告> \*ガバナー月信NO. 13/NO. 2

\*例会終了後 次年度地区大会打合せ開催（例会場）

<出 席 報 告> \*出席委員会 江口委員長から8月28日の出席報告

| 会 員 数 | 出席対象者数 | 出席数(ZOOM 出席数) | 欠 席 数 | メイクアップ 数 | 出 席 率  |
|-------|--------|---------------|-------|----------|--------|
| 103名  | 91名    | 62名(1名)       | 29名   | 5名       | 73.63% |

メイクアップ： 植田、兼城、鈴木(之) 各会員 理事役員会出席

小佐野、前田両会員 地区委員会出席

## <ニコニコ報告>

・福 嶋 義 信 様（横須賀北RC） お世話になります。

・三 役、梁 井、杉 浦、八 巻、権 田、井 上、田 中、  
濱 田、鈴木(剛)、江 口、高橋(剛)、角 井、瀬 戸、澤 田、  
土 田、椿、小 澤、木 村、三 堀、田 邊、川 名、齋藤(剛) 各会員

山城ガールむつみ様ようこそお越しくございました。三浦一族と横須賀の卓話とても楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

・佐久間、新 倉、濱 田、鈴木(剛)、高橋(剛)、小林(剛)、  
根 岸、岡田(剛)、土 田、鷺 尾、池 田、齋藤(剛) 各会員

横須賀北ロータリークラブ 福嶋義信様ようこそお越しくございました。ごゆっくりお過ごしください。

・小林(剛) 会員 入会月祝いとして

・2番テーブル岡田(剛) マスター、梁井サブマスター 8月21日、甲羅本店にて2番テーブルミーティングが開催されました。美味しい料理と岡田テーブルマスターからの美味しいお酒と熊本焼酎を堪能し、松本会員の際どい話題などで大いに盛り上がりしました。渡邊会長、三宅さん、参加いただきました2番テーブルの皆様ありがとうございました。長幸さんチーズケーキ美味しかったです。

- ・小保内、松本 𨔵、齋藤 𨔵、植 田、藤 村、大野 𨔵、堀 川 各会員  
21日、2番テーブルミーティングが甲羅にて行われました。小澤会員美味しいお料理とお土産ありがとうございました。岡田マスター、梁井サブマスターありがとうございました。
- ・5番テーブル田邊マスター、石田サブマスター 21日、5番テーブルミーティングをメルキュールにて開催しました。楽しいひとときをありがとうございました。副会長、副SAAご参加の皆様ありがとうございました。
- ・梶 木、真 野、石 川、齋藤 𨔵、山下和志、西 生 各会員  
21日、5番テーブルミーティングがメルキュールにて行われました。楽しいひとときを田邊マスター、石田サブマスターありがとうございました。
- ・8番テーブル長尾マスター、小山 𨔵 サブマスター 24日、8番テーブルミーティングがホテルニューポートヨコスカにて行われました。いろいろなお話が出来てとても楽しいひと時でした。会長、副会長、SAA、ご参加頂きました会員の皆様ありがとうございました。
- ・五十嵐 会員 24日、ニューポートヨコスカにて8番テーブルミーティングが開催されました。美味しいお料理でとても楽しいひと時になりました。長尾マスター、小山 𨔵 サブマスター有難うございました。
- ・社会奉仕委員会 比護委員長、杉浦副委員長 本日より毎月1回障がい支援事業者様による商品即売会を行います。よろしくお願いします。
- ・吉 住、佐久間、濱 田、鈴木 𨔵、高橋 𨔵、土 田、小林 (-)、齋藤 眞、山下和男 各会員  
2025-2026年度クラブ優秀賞を受賞いたしました。皆様と共に、この受賞を喜びたいと思います。
- ・松 川、八 木、加藤 𨔵、臼 井、新 倉、濱 田、高橋 𨔵、瀬 戸、  
小山 𨔵、鈴木 𨔵、土 田、平 松、川 名、齋藤 眞、小保内 各会員  
8月25日の神奈川新聞に岡田英城会員の会社の記事が掲載されました。製造業の枠を超えた新しいことに挑戦しているそうです。頑張ってください。
- ・濱 田 会員 私事ですが、嬉しい事がありました。みな様にも良い事がありますように！！

## <卓 話>

## 「三浦一族と横須賀」 ～ 地域の資源を掘り起こす ～

山城ガールむつみ 様

本日はこのような機会をいただき、大変光栄に存じます。今日は「三浦一族」と「横須賀」をテーマに、横須賀の魅力の一つとして歴史を再発見していただければと思い、お話しします。

私は各地の自治体と連携し、その土地に眠る歴史を掘り起こして一般の方に伝え、市民の皆さんや観光客の方々が地域に愛着を持てる仕組みづくりに関わってきました。私自身は横須賀・久里浜の出身ですが、現

在は横浜に住んでいます。引っ越した理由は単純に「便利だったから」でした。しかし当時は、三浦一族のことをほとんど知らないまま横須賀を離れてしまいました。ところが、横須賀を出てからむしろ三浦一族と横須賀の歴史の魅力に取りつかれ、今では横須賀へ通いながら活動しています。本日は、三浦一族と横須賀の歴史がいかに関係しているか、という点を中心にお伝えします。

まず私の活動の入口である「山城」について簡単に触れます。城と聞くと天守閣を思い浮かべる方が多いと思いますが、天守が築かれていない時代、すなわち南北朝から室町、戦国期にかけては、山の地形（要害）を利用した城が全国に無数に築かれました。これが山城であり、江戸時代以降の近世城郭ではなく、中世城郭と呼ばれるものです。城の数は五百、千と想像されがちですが、城跡は全国に数万か所存在するといわれています。そのほとんどが、天守を持たない山城です。「城」という字は「土で成る」と書きます。土を盛り、堀や土塁などの土木工事を施して築かれた構造物が城であり、建物の有無は本質ではありません。つまり城を見るときは、建物を見るというより、地形と立地を見ることなのです。城は軍事施設であると同時に、政治の場であり、居館であり、流通・経済の拠点であり、信仰の場であり、有事の際の避難所でもありました。だから城を手がかりにすると、その地域の歴史そのものが見えてきます。

ここから横須賀の話に移ります。象徴的なのが平作川です。久里浜から海へ向かうあたりの景色は、横須賀の歴史を読み解く鍵になります。かつてこの一帯は入り江で、縄文時代には現在の衣笠十字路付近まで海が入り込んでいました。時代が下って鎌倉時代にも、水路として船が行き来する重要な交通の拠点でした。海側には東京湾フェリーの港があり、その近くに栗浜明神（現在の住吉神社）があります。ここは源頼朝や北条政子も参詣したと伝わり、海上安全の祈願などにも関わる重要な場所でした。おそらく三浦一族にとっての祈願所でもあったと考えられます。平作川をさかのぼると、久村や舟倉周辺の両岸に貝塚が残っています。貝塚に挟まれた地形から、そこがかつて海だったことが分かります。三浦一族はこの「水の道」を活かして本拠地を形づくりました。さらに大矢部方面へ入ると、谷の突き当たりに衣笠城を置き、その麓の谷筋に居館や寺院を配置して、拠点を構成していきます。現地を歩けば、八百年前の本拠地の輪郭が今も色濃く残っているを感じ取ることができます。

三浦一族は、平安時代の終わり頃に三浦半島（三浦郡）を領し、地名から「三浦」を名乗った武士団です。源頼朝の挙兵を支え、鎌倉幕府成立に大きな役割を果たしました。三浦一族がいなければ頼朝は鎌倉に政権を築けなかった——そう言い切ってもよいほどの存在です。頼朝が平家打倒の挙兵をすると、三浦一族はただちに味方します。その結果、平家方の大軍が三浦の拠点を襲い、衣笠城で合戦（衣笠合戦）が起きました。平家方は大軍、三浦方は少数で、城は落城します。三浦一族は船で安房へ逃れ、同じく敗走していた頼朝と房総で合流し、戦いながら鎌倉入りを果たします。頼朝が鎌倉に入る過程でも、三浦一族の助けは決定的でした。衣笠城で討死したと伝わるのが三浦大介義明です。義明を弔うために頼朝が建立したと伝わる寺が、大矢部の満昌寺です。義明の姿を写した鎌倉時代の本拠地の木像が残り、国の重要文化財となっています。さらに義明は江戸時代の祝い歌にも登場し、当時の人々に広く知られた人物でもありました。

三浦一族は本拠・衣笠の周辺に分家が広がり、半島各地の統治や開発に関与しました。今に残る地名、たとえば佐原、津久井、長井、芦名、野比などは、のちに一族が名字として名乗ったものも多く、地名を手がかりに歴史をたどることができます。また三浦一族は地頭や守護などとして全国へ進出し、各地に足跡を残しました。横須賀の歴史は、鎌倉・京都、さらには全国へとつながっています。三浦半島には重要文化財の仏像が密集し、文化財の厚みそのものが、当時の三浦一族の財力や権力、文化的水準を物語っています。



時代が下り、相模の三浦氏は戦国期に北条氏に攻められて滅びます。しかし、港や入り江の使い方などは現代の景色にも重なり、今見ている風景の中に当時の痕跡を見いだすことができます。歴史は地域にとって大切な宝であり、地域のオリジナリティを語る力です。建物が残らない城や史跡にも、確かな「地域のノンフィクション」としての歴史が眠っています。子どもたちは、自分の住む場所がどんな土地だったのかに、大人が思う以上に興味を持っています。次世代とともに地域の歴史資源を見つめ直し、活かしていく取り組みを、これからも進めていければと思います。

本日は限られた時間でしたが、三浦一族が全国へ広がり活躍したこと、そして目を向ければ私たちの身近に歴史が紐づいていることをお伝えしました。ご清聴ありがとうございました。



<閉会・点鐘> 13:30 渡 邊 会長

週報担当 真 野 俊 和